

学習支援部

1 業務内容(教務系)

(1) 企画

学校教育計画・年間行事計画・教育課程

(2) 学事

指導要録等諸帳簿管理・各種台帳作成管理・転出入関係書類管理・通知票
卒業証書発行・修了者名簿作成・シラバス管理

(3) 庶務

学校要覧・教科用図書・出席簿・学校日誌・各教科会小学部会

2 今年度の活動計画等(教務系)

- (1) シラバス作成 (小学部、中学部、高等部)
- (2) 指導要録等帳簿管理及び整理、学校日誌管理
- (3) 学校教育計画・学校要覧の作成
- (4) 転出入関係書類管理
- (5) 教科書係会・各教科会・小学部会の運営
- (6) 教務内規の作成

3 今年度の主な活動実績(教務系)

- (1) シラバスの改善等及び府教委への提出 (小学部、中学部、高等部)
- (2) 長期休業中等を利用しての管理と整理(年度ごとの保管と廃棄分の処理)
- (3) 学校教育計画・学校要覧を年度初めに毎年作成
- (4) 書類管理と処理について、業務軽減と紙資源節約に向けての業務改善
- (5) 各会における業務内容の整理とサポート
- (6) 内容の改訂と整理(指導要録、出席簿、学校日誌、各種書類作成手順等)

1 今年度の活動(進路指導系)

(1) 教科会・成績判定会議の実施スケジュール

第1回	4月2日	新転任の教員を中心に教科で評価の付け方を確認。
第2回	7月14日	1学期の評定(全学年)を確認。
第3回	12月7日	12/31在籍の3年生の進路評定を確認。 (私立高等学校、公立高等学校特別選抜受験用)
第4回	12月19日 (対象者なしで実施せず)	1・2年生の2学期の評定を確認。
第5回	2月5日 (対象者なしで実施せず)	2/15在籍の3年生の進路評定を確認。 (公立高等学校一般入試受験用)
第6回	3月15日 (対象者なしで実施せず)	3/31在籍の1・2年生の学年末の評定を確認。 (中3時に公立高等学校入試に使用)

- ・第1回の会議で、各教科で、評定の付け方や傾斜配点の決定、成績判定資料の活用方法などを話し合った。
- ・第2回教科会を実施した日は、各部署の中学部は午前授業とした。第3回以降は、当日までに各教科で教科会を実施し、成績判定会議のみを行うこととした。
- ・教科会を円滑に進めるために、事前に各教科、各部署で成績評価シートを確認するようにした。

I 校務分掌

(2) 進路希望調査

地域校との連携のため、秋ごろに刀根山支援学校に在籍する中学部 3 年の生徒には進路希望調査を行った。進路希望調査を取ることで、各生徒の進路希望先を把握することができ、地域校と円滑に連携することができた。

(3) 奨学金の取り組み

公益財団法人 日本教育公務員弘済会 大阪支部に本校教育部の男子生徒 1 名を推薦し、高等学校奨学生に選考された。その結果、5 万円の給付をいただいた。

(4) 進路内規について

昨年度に引き続き進路内規を活用して中 3 生徒の逆交流などを実施した。

(5) 年間成績記録の作成

刀根山支援学校で教科会および成績判定会議で成績をつけた生徒の評定についてまとめておく年間成績記録を今年度も活用した。

(6) 進路指導主事の活動について

定期的に行われる支援学校部会やブロック会議にすべて参加し、他校の進路指導主事と情報共有を行い、高等部の遠隔職場実習を他の支援学校含む 5 校合同で実施することができた。また、豊能ブロックの代表校として、ハローワークや福祉事業所、支援学校などの 37 の関係機関と連絡を取り合い、本校の多目的室を会場として「第 2 回豊能ブロック会議 進路指導関係機関連絡会議及び障がい者雇用連絡会議連絡会議」を実施することができた。

2 中学部の進路指導（進路指導系）

(1) 中学 3 年生への進路指導

各部署の進路指導担当が中心となり、地域校と連携を取りながら、必要に応じて進路指導を行った。精神分教室の中 3 生徒を対象とした進路学習では、他部署の進路指導系の教員とも連携しあい、面接指導を行うことについて協議した。

また、転入時に管理職間で地域校と進路指導について、評定のつけ方など、どのように連携を取りながら進めていくべきかを話し合っていたいただいた。それぞれの地域校とも良い関係を構築しながら、連携を深めることができたと考えている。

(2) 進路講話「ようこそ先輩」

滝井分教室で進路講話「ようこそ先輩」という授業を実施することができた。以前病院に入院していた卒業生をゲストとして迎え、入院中の思い出や現在の進路を選んだ思いなどを話してもらったり、在校生からの質問に答えてもらったりした。

3 高等部の進路指導（進路指導系）

(1) 「進路の手引き」の改定

2021 年度に作成した、生活介護事業所や就労移行支援事業所、福祉サービス、過去 5 年間の進路実績などをまとめた「進路の手引き」を加筆・修正した。今後も、必要に応じて改定を加えていく。

I 校務分掌

(2)進路指導について

【遠隔職場実習】

- ・5月に株式会社「スタッフサービスクラウドワーク」との遠隔職場実習をさせていただいた。本実習は、本校だけでなく堺支援学校、中津支援学校、光陽支援学校、東淀川支援学校と5校合同で行うことができた。生徒はZoomを活用して、企業からいただいた個人課題に取り組んだり、他校の生徒とコミュニケーションをとりながら共通の課題に取り組んだりすることができた。さらにその様子はテレビ大阪や時事通信社に取材され、テレビや雑誌に情報が発信された。

【自立生活センターとの連携】

- ・NPO法人CIL豊中と連携し、管理者である大岩裕司氏と相談支援員の山下栞理氏が中心となって行うILP(自立生活プログラム)講座を、およそ月に1回程度のペースで開いていただいた。ILP講座は、生徒との面談と、講演会、生徒との自立生活の模擬練習などの総合を指す。
- ・生徒との面談では、卒業後のニーズである「地域で自立生活を送りたい」というニーズをもとに、福祉制度に関わる情報を伝えていただいたり、障がい当事者としてのピアカウンセリングを行っていただいたりした。
- ・講演会では、8月に「障がいの医療モデルと社会モデルについて」をテーマに教員研修を行っていただいた。高等部の生徒も参加して一緒に学ぶことができた。また、10月には「自立生活を一緒に考えよう!」というテーマで、自立生活の一日の流れや、ヘルパーとの関わり方について講演していただいた。
- ・12月には生徒と大岩氏、山下氏の3名で、「ピザトーストをヘルパーに作ってもらおう」という自立生活の模擬練習をしていただいた。
- ・2月には一人暮らしが可能な物件情報をもとに、自立生活について具体的に考える講義をしていただいた。

【刀根山医療センターとの連携】

- ・毎月の病棟連絡会での情報共有はもちろん、療育指導室の職員とも密接に情報を共有することで、生徒のニーズに沿った進路指導を実現できるように年間を通して連携することができた。
- ・18歳の年齢を迎える生徒を対象に行われた区分認定調査について、子ども家庭センターや寝屋川市職員との連絡調整などを行っていただいた。
- ・生徒、保護者、主治医、療育指導室、看護師、CIL豊中職員で構成されるケース会議を開いていただき、生徒が希望する自立生活の実現に向けて話し合いをしていただいた。

【パソコン交流会】

- ・第3回 高校生によるプログラミング教室「ユニコーンジャンプを作ろう」を開催した。本校の生徒と、刀根山高校パソコン部の生徒が講師となり、来校した参加者やZoomでの参加者に向けて、プログラミングの講義をしたり自由制作のワークショップを行ったりした。

【他校との交流学习】

- ・大阪府立刀根山高等学校…パソコン交流会に向けての合同練習
- ・大阪府立松原高等学校…同年齢の障がい当事者とオンラインで繋ぎ進路について話した
- ・関西大学、関西学院大学…大学生とのオンライン交流、文化祭やパソコン交流会への直接参加